

野外活動

プログラム名	キャンプファイヤー			
概要	仲間とファイヤーの火を囲み、火の大切さを学ぶ。スタンプやゲーム等を通して絆を深め、心の交流を深める。			
ねらい	大自然の中で火を囲み、自然と触れ合うことができる。友と語り、友を知り、自分を知ることができる。火を通して、火の偉大さ、強さ、厳しさ、温かさ、大切さを再確認することができる。スタンプなどのグループ活動を通して、仲間意識を養うことができる。			
条件	対象	全年齢	人数（指導者人数）	～200人（2人以上）
	活動目安時間	90～120分	活動時期	通年
	活動場所	営火場 A・B	費用	4,000円（薪、灯油等）
	下見	要	活動名簿提出	不要
持ち物・準備	<p>（個人）飲料、軍手（井桁を組む研修生のみ）、懐中電灯 ※必要に応じて虫よけスプレー、長袖、長ズボン</p> <p>（団体）トーチ棒（必要数：火の神、御子、献詞者の人数分、予備1、2本など）、スタンプに必要なもの</p> <p>（貸出）衣装（3人分）、うちわ・杖、アンプ、CD ラジカセ（Bluetooth 機能あり）、延長コード</p> <p>チャッカマン、片付け用具、消火用具、キャンプソングCD（収録曲はキャンプファイヤーの手引きへ記載）</p>			
安全上の留意点 （対策方法）	<p>火傷（トーチ棒、井桁の扱い、風向きに注意）</p> <p>暗闇での転倒、接触（懐中電灯を準備する）</p> <p>スタンプ中のケガ（活動範囲を考慮し、無理なスタンプ構成をしない）</p> <p>煙による体調不良（風下での活動を避け、極力煙を吸わないよう配慮、危険性を研修生に伝える）</p> <p>自然災害（気象状況の事前把握、落雷等ある場合は指導者判断の下速やかに青年の家へ避難する）</p> <p>火災（強風・風向注意、周辺の草木に水を散布、活動後の消火を徹底）</p> <p>虫刺され（虫よけスプレーを準備、特に営火場Bでは蚊が多いので長袖・長ズボン推奨）</p>			
活動内容（手順）				
<p>事前①指導者配置の決定：活動指導（準備、進行、火の神などの役割分担を決定）、巡視指導（活動中の研修生の補助や指導・助言）</p> <p>ファイヤーキーパー（風や進行に応じて火力を調整）、準備/片付け（当日準備/備品の返却、消火、翌朝灰処理）</p> <p>②下見の実施：営火場までの動線及び営火場の周りの状況を把握</p> <p>③実施方法の決定：第1部から第3部までの流れや休憩時間、全員で合唱する歌などの決定（進行の不明点は要相談）</p> <p>④グループ編成：活動内容に応じて、スタンプを行うグループ等編成</p> <p>⑤研修生への事前指導：「概要」「ねらい」「安全上の留意点」等の指導、服装や持ち物の確認、火の扱い方の指導</p>				
<p>活動前①打合せ：16:00頃、事務室前で所員と団体責任者、担当指導者にて実施</p> <p>1次実施判断：気象を基に、協議の上決定</p> <p>確認事項：人数、健康状態、貸出備品→備品をすべて持って営火場AまたはBへ移動</p> <p>②準備：薪小屋の使い方、井桁の組み方、コンセントの位置、灯油の扱い方、消火方法について所員とともに確認</p> <p>片付け：消火器、道具類の片付け、貸出物の返却、料金精算書、翌朝の片付け方法について所員とともに確認</p> <p>③最終実施判断：18:30頃、事務室前で所員と団体責任者、担当指導者にて実施</p>				
<p>活動①営火場AまたはBへ移動：懐中電灯で道を照らしながら移動、連絡車両をログハウス駐車場へ移動</p> <p>②活動開始：第1部→第2部→第3部</p> <p>③確認事項：人数、健康状態</p> <p>④本館へ戻る</p> <p>⑤報告：本館に戻った指導者は、所員へ活動終了と研修生の健康状態を報告</p> <p>⑥夜の片付け（片付け担当）：薪の完全消火、道具類の片付け、貸出備品の返却と確認 ※水道元栓は必ず閉めること（要注意）</p> <p>⑦朝の片付け（片付け担当）：井桁の燃え残りは薪小屋前の燃え残り置き場へ並べて置く。その他の燃え残りは、水を張ったバケツに入れる。忘れ物の有無を確認し薪小屋の鍵と燃え残りが入ったバケツを事務室へ返却（6:30～7:30）</p>				

<その他>

- 費用4,000円の内訳【太薪（8本）、細薪（2束）、灯油（2リットル）】※雨天中止の場合、着火前であれば費用は掛からない
※木材価格の高騰による価格改訂となります。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。
- トーチ棒は木材を使用すること。竹や園芸支柱は使用不可。
- 当日の準備（活動前①②）は研修生のキャンプファイヤー係も指導者とともに参加
- 活動前後に営火場外周の枝木に放水を行う。
- 夜の片付け時の薪の消火は、水をかけ、完全に煙が出なくなるまで行う（目安45分～1時間）（燃え残りは朝片付ける）
- **井桁用太薪以外の燃え残りはドラム缶ではなく、水を張ったバケツに入れて事務室へ返却。（令和7年度より）**

- 役割**①火の神 …1人
 ②火の御子…2人
 ③献詞者 …研修生や班の数に応じて人数を決める

- 営火長(うちわ又は杖を持って入場)
 → 火の神の先導役(トーチ棒を持って入場)
 → 聖火をいただく代表者

《例》	活動内容	留意点
第一部 (セレモニー)	○芝生広場に研修生を整列させる	○活動終了後の流れを事前に指導しておく ○厳かな雰囲気を保ち緊張感を持たせる ○火の神、火の御子の着替えは薪小屋前で行い、研修生に見つからないよう待機する
	○研修生は営火場に入場し井桁を囲むように円形に並び ○研修生が営火場へ入場後、火の神、火の御子は芝生広場に移動し待機する	○研修生の入場は配置を決めておき、一列で入場するとよい ○火の神、火の御子の入場通路と定位置は空けておく ○私語は禁止し静かに待機させる
<p>《司会》</p> <p>キャンプファイヤー第一部を始めます。 (一呼吸おいてから) 今日一日、私たちの活動を強く照らし続けていた太陽も西の空に沈み、夜のとぼりが下りてきました。私たちの集いを始めるために「遠き山に日は落ちて」を歌い、火の神を迎えましょう。</p>		
	○研修生は歌を歌い、火の神、火の御子を迎え入れる ○歌が始まったら火の御子のトーチ棒に点火する ○火の神、火の御子は研修生の円の中をゆっくりと1周半して定位置につく	○芝生広場にチャッカマンと水入り消火バケツ1つを用意しておく ○火の神は火の御子の後ろで逆三角形の体系になって入場する
<p>《司会》</p> <p>(火の神、火の御子が定位置についてから) 「分火、誓いの言葉！」 献詞者は火の神の前に整列しましょう。</p>		
	○献詞者は火の神の前に横一列に整列する ○献詞者は火の神から献詞の言葉、火の御子から分火をいただき、誓いの言葉を述べる	○火のもらい方に注意し、火傷に気を付ける ○火の神、献詞者は堂々と大きな声でゆっくり丁寧に言葉を述べる
<p>《火の神》</p> <p>①あなたには生命の火を与えます ②あなたには情熱の火を与えます ③あなたには挑戦の火を与えます ④あなたには友情の火を与えます ⑤あなたには奉仕の火を与えます ⑥あなたには協力の火を与えます ⑦あなたには信頼の火を与えます ⑧あなたには感謝の火を与えます</p>		
<p>《献詞者》</p> <p>①私は生命の火をいただきました。与えられた命を大切に、元気よく生活することを誓います。 ②私は情熱の火をいただきました。何事も一生懸命取り組むことを誓います。 ③私は挑戦の火をいただきました。これから先、どんな高い壁に当たっても逃げずに立ち向かうことを誓います。 ④私は友情の火をいただきました。この炎のように美しい心を持ち、友達を大切にすることを誓います。 ⑤私は信頼の火をいただきました。どんな時も相手を信頼し、自分も信頼してもらえる人間になります。 ⑥私は協力の火をいただきました。一人では乗り越えられないことも、仲間と力を合わせて成し遂げます。</p>		

<p>⑦私は希望の火をいただきました。今日の良き思い出を忘れず、一步一步前進することを誓います。</p> <p>⑧私は感謝の火をいただきました。いつまでも感謝の気持ちを忘れないことを誓います。</p> <p>≪司会≫ (火の御子、献詞者が井桁を中心に集まってから) 点火を行います。「点火！」</p>		
<p>○献詞者が分火をいただいた後、火の御子、献詞者は井桁を中心に円形になって集まり「点火」の合図を待つ</p> <p>○司会の「点火」の合図で井桁に点火する</p> <p>○火の御子、献詞者は点火したらトーチ棒を井桁に残し、すみやかに井桁から離れ、元の位置に戻る</p>	<p>○トーチ棒の火が消えたり消えそうな場合に備え、予備のトーチ棒、灯油、チャッカマンを火の神の近くに用意しておく</p> <p>○営火場に水入り消火バケツ4つ、消火器2本を用意しておく</p>	
<p>≪司会≫ (火の御子、献詞者が元の位置に戻ったことを確認後) みんなで「燃えろよ燃えろ」を歌いましょう。 (歌が終わってから) 「火の神の言葉！」 火の神お願いします。</p> <p>≪火の神≫ 私は、三々日のお山に住む火の神です。 火は遠い昔から、私たちに生きることの喜びや、勇気を与えてくれます。火は自らをを焼き尽くしながら、光と熱を私たちに与えてくれます。火は私たちの生命ともいえるものです。このことは数千年の昔から私たちの祖先が火を守って、ある時は獣や外敵から身を守り、モノを作ることを教え、また、明るくすることを考えてきました。私たちはこの暗闇に光を与えてくれる炎のように世界のすべてに明るさと希望を与えることを共に誓いたいと思います。そして、この炎のもとで、私たちは友情と親睦を深めあい、今後の活動をより大きく意義のあるものとして行こうではありませんか。</p> <p>≪司会≫ 火の神、ありがとうございました。 続いて第二部を始めます。みんなで盛り上がっていきましょう。</p>		
<p>○司会の合図で歌を歌う</p> <p>○火の神は軽く一歩前に出て、火の持つ意義や歴史自然との関り、人生観などを2～3分で話す</p>	<p>○台詞をしっかり覚える (うちわ等に貼っておいてもよい)</p> <p>○火の神、火の御子が研修生の場合は着替えを行う</p>	
<p>第二部 (レク・スタンツ)</p> <p>○レクリエーション 歌を歌ったり体を動かしたりするゲームを実施する <レクリエーションの例> 「ゲーム」「アブラハムの子」「線路は続くよどこまでも」 「アルプスじゃんけん」</p> <p>○スタンツ 1グループ3～5分程度</p>	<p>○火の神、火の御子は第三部に備えて第二部終了前に着替える</p> <p>○ファイヤーキーパーは予備の薪や灯油を湿らせた布(通称:ばくだん)をバケツに用意し、レクへの注目を妨げないよう、合間に投入して炎を調整する。また、第三部が始まる頃には「ぼた火」になるよう調整する</p>	

	<p><スタンツの例> 「ダンス」「寸劇」</p> <p>○歌 二部終了にもっていくために、だんだん静かな歌にしていく</p> <p><歌の例> 「大きな栗の木の下で」「おもちゃのチャチャチャ」 「シャボン玉」「赤とんぼ」「もしもしカメよ」 「大きな古時計」「虫の声」</p>	<p>○火の神が指導者の場合は定位置で見届ける</p>
<p>第三部 (セレモニー)</p>	<p>○火の神の言葉(終わりの言葉)</p>	<p>○私語は禁止し静かに待機させる</p>
	<p>《司会》 第三部を始めます。 (一呼吸おいてから) 「火の神の言葉！」 火の神お願いします。</p> <p>《火の神》 楽しい集いの間、私たちを見守ってくれた炎は、今や静かに消え行こうとしています。炎は私たちの胸に、いっそう激しい青春の情熱と、仲間意識を残してくれたことと思います。私たち全員心を合わせ、無事今日の日を終えたことを、お互いに喜びたいと思います。これからの長い人生のほんの一角にすぎない、この青年の家での一夜ではありますが、ここで静かに、今までの活動を振り返り、ここに灯され、ここに生まれた友情の火を、いつまでも灯し続けていってほしいと思います。そしてより大きな火へと成長することを祈りつつ、この集いを終わりにします。</p> <p>《司会》 火の神ありがとうございました。火の神、火の御子が退場します。みんなで「今日の日はさようなら」を歌って見送みましょう。</p>	
	<p>○研修生は歌を歌い火の神、火の御子を見送る ○火の神は全体のまとめや感想、激励の言葉を2~3分で話す ○火の神は「終わりの言葉」を述べた後、井桁の火でトーチ棒に点火し、それを持って退場する ○火の神は芝生広場に用意しておいた水入り消火バケツにトーチ棒を入れて消火する ○研修生退場(本館へ移動)</p>	<p>○火の神が先頭で火の御子はその後に三角形の隊形で退場する ○消火後、火の神、火の御子は研修生に見つからないよう薪小屋へ移動し着替えを行う ○厳かな雰囲気壊さないよう指導者からの連絡事項は控えて本館まで静かに移動する</p>

「遠き山に日は落ちて」

遠き山に日は落ちて 星は空を散りばめぬ
今日のわざをなしおえて 心かろくやすらえば
風は涼しこの夕べ いざや楽し まどいせん まどいせん
(1番は歌詞、2番以降ハミング)

「燃えろよ燃えろ」

燃えろよ燃えろよ 炎よ燃えろ
火の粉を巻き上げ 天まで焦がせ

照らせよ照らせよ 真昼のごとく
炎よ渦巻き 闇夜を照らせ

燃えろよ照らせよ 明るく熱く
光と熱との もとなる炎

「今日の日はさようなら」

いつまでも絶えることなく 友達でいよう
明日の日を夢見て 希望の道を

空を飛ぶ鳥のように 自由に生きる
今日の日はさようなら また会う日まで

信じあう喜びを 大切にしよう
今日の日はさようなら また会う日まで また会う日まで

※その他、レクリエーションや曲についてはインターネット等でも確認できます。

※歌については司会の合図ではなく、司会が歌い始めたら歌う方がスムーズで望ましい。

◎貸出 CD 収録曲

- 1.キャンプだホイ
- 2.森のくまさん
- 3.すいかの名産地
- 4.アルプス一万尺
- 5.静かな湖畔
- 6.ピクニック
- 7.大きな歌
- 8.おお、牧場は緑
- 9.線路はつづくよどこまでも
- 10.フニクリ・フニクラ
- 11.おおブレネリ
- 12.森へ行きましょう
- 13.わらの中の七面鳥
- 14.ゆかいな牧場
- 15.アブラハムの子
- 16.切手のないおくりもの
- 17.山賊のうた
- 18.遠き山に日はおちて(家路)
- 19.大きなくりの木の下で
- 20.手のひらを太陽に
- 21.しあわせなら手をたたこう
- 22.おどろろ楽しいポーレチケ
- 23.ともだち賛歌
- 24.メドレー 星かげさやかに / 燃えろよ燃えろ
- 25.今日の日はさようなら

<注意事項>

①トーチ棒の持ち方

トーチ棒は両手で持ち、斜め前方に傾け高く掲げる。

トーチ棒へ灯油をかける時は井桁の上でウエス部分が下の状態を保ち、ウエス全体が湿る程度かける。

(持ち手の方向に灯油が垂れないよう注意する)

②消火

井桁の消火は研修生が退場後、指導者が行ってください。

燃やした薪から煙が出なくなるまで水をかけ続けてください。(消火目安は 45 分~1時間)

消火不十分の場合、くすぶっている薪から発火して、火災につながる恐れがあります。

ホース(水道)の元栓は必ず閉めてください。(要注意)

<トーチ棒の作り方>

直径4センチ・長さ1.5メートル程度の木の棒、ウエス(薄手のタオルなど)、針金(2m程度)、ペンチを使って作ります。

(ホームセンター等で角材を購入して作成する場合は、【2×2の5フィート】)

※竹は破裂し灯油をまき散らしけがをする恐れがあるため、木の棒を使用してください。



①木の先端にウエスをできるだけきつく巻きます。

②針金を下からできるだけきつく巻きます。

③上まで巻いたら下へ巻き戻し網目状にします。

④針金の端をねじり、ペンチで切ったら完成です。

※できたトーチを軽く振ってみて、布が動かないか確認をしてください。



<よくあるQ&A>

Q:所員は活動に同行しますか？

A:しません。16:00～の準備には同行し、営火場で井桁の組み方、消火方法等の説明、疑問点などを所員とともに確認します。

Q:火の神・火の御子の着替えはどこで行えばいいですか？

A:営火場 A 横の薪小屋前で行ってください。16:00～の準備の際に場所の確認を所員と行います。
営火場Bで活動の場合も同様です。

Q:薪はすべて使わなければいけないですか？

A:すべて使わなくても構いません。火の大きさや時間を見て、薪の量を調節してください。
また、使わない薪がある場合も、返金は致しかねます。薪や灯油の追加も致しかねます。
使わなかった薪は、片付けの際に薪置き場に戻してください。

Q:花火やトーチトワリングを行ってもいいですか？

A:火傷や火災等の危険性が高くなるため、禁止となっています。

Q:スタンプの寸劇はどのようなものを行えばいいですか？

A:セリフなどが良く聞こえなくても、全体に「何をやっているか」がわかる内容が良いです。また、おとぎ話やアニメ等のアレンジをしたものが分かりやすいです。

Q:スタンプの指導はどのように行えばいいですか？

A:以下に注意して指導しましょう。

- ①中央に火があるため、火の一方だけではなくまわり全体を舞台とさせる。
- ②セリフは大きな声でゆっくりと、動作も大きく表現させる。
- ③火があることを意識し、激しすぎる動きや危険と思われる行動は避けさせる。
- ④練習は分かれて行い他の班に内容ややり方を内緒にする。(同じ場所で練習すると、他の班の内容が分かって当日までに関心が薄れ、本番の時に自分の班のスタンプの出番・役割に関心が向いてしまうため)

Q:焚き火のみでの活動は可能ですか？

A:営火場のみ可能です。尚、薪の持込みは不可でキャンプファイヤー費用4,000円をいただきます。

Q:火の神、火の御子の衣装はいくつ借りれ、また、どのようなものですか？

A:衣装は3人分までです。火の神は草冠、うちわ又は杖、腰ひも、シーツで1セットです。火の御子はうちわ又は杖がない以外は火の神と同じです。

うちわの場合



杖の場合

